

公民館報 No.247

令和6年1月1日発行

A N A N

発行人●阿南町公民館編集部 編集人●公民館報編集委員会 印刷所●飯田共同印刷株式会社
連絡●〒399-1511 東條58-1 TEL 22-2270 FAX 22-2287
E-mail:kyouiku@town.anan.nagano.jp

Contents	
P1	表紙 遊歩道
P2	開催イベントの様子
P3・4	西富士のあゆみ
P5	あなんNEWS、私の趣味自慢
P6	あなんトピック、お知らせ、編集後記

「ANAN遺産フォトコンテスト受賞作品」



Instagram部門 最優秀賞
リズムを合わせて和合念仏踊り



Instagram部門 優秀賞
6月のある日の夕焼け@新野



Instagramいいね最多賞
和合の念仏踊り



フォト部門 最優秀賞
自然遺産にしたい深見の池の蝶トンボ



フォト部門 優秀賞
千石平 盛夏



遊歩道

あけましておめでとうございます。

2024年は辰年です。「辰」は「振るう」という文字に由来しており、自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態を表しているそうです。令和6年となり、新元号「令和」となってから慌ただしく5年が過ぎました。

昨年は様子を見つつ、少しずつコロナ前の日常を模索しながら取り戻していく日々でした。久しぶりに懐かしい顔を見ることができ、集まって他愛ない会話ができる嬉しさに心が温かくなりました。直接会うから話せることや感じとれることがあり、大切さを実感しました。

最近の情勢はまだ安定せず、悲しいニュースや物価高騰が続いています。これからの未来に向けて、心温まるコミュニケーションがますます必要だと感じます。厳しい時期だからこそ、お互いに助け合える場所があってほしい。例えば、公民館でのイベントやワークショップ、地元でのサークル活動など、いろんな場での出会い、笑顔と元気を分かち合いながら、一人ひとりが前向きに生きていけるような場所が広がってほしいです。今年もよい年となりますように祈っています。



11月イベントまとめ

11月11日(土) 開催 第37回 感性と創造のフェスティバル

今年も、阿南町公民館 主催での感性と創造のフェスティバルを行いました。町内の学校・文化団体 計10団体の参加があり。たくさんの来場者のなか日頃の活動の発表を行いました。

11月12日(日) 開催 第40回 県境域住民文化交流会

今年も、売木村で第40回県境域住民文化交流会を行いました。阿南町からは4団体が参加を行いました。当日は100名近くの来場者があり盛大に開催しました。



11月19日(日) 開催 第9回 あなんカラオケ歌謡大会

3年ぶりの開催となったあなんカラオケ歌謡大会は、51名の町内外の方々に参加をしました。特別ゲストとして「鶴岡雅義と東京ロマンチカ」の宮内ひろしさんをゲストに迎え、盛大に盛り上がりました。



11月25日(土) 開催 第46回みんなで走ろう駅伝競走大会

昨年に引き続き、駅伝は周回コースでの開催(一部コース変更)。新規にロードレース部門を追加しました。参加者は180名程となり会場は寒空の下あたたかな拍手と歓声に包まれました。





松木圭吾さん



熊谷幸一さん家族

令和4年3月 第236号公民館報『あな
ん』より『西富士のあゆみ』と題して大
下条村(現阿南町)の歴史である西富士
開拓団の記事を掲載してきました。
掲載については、実際に入植された1
世と呼ばれる方からその意思を引き継ぎ
後世へと伝える2世・3世の方々から寄
稿していただき掲載をしてきました。西
富士の方の阿南町に対する思いを強く強
く感じる事ができました。過去の記事
は町HPにてご覧いただけます。



島津さとりさんご夫妻



佐々木剛さん



佐々木健一郎さん
ご夫妻



関内千壽さんと息子の慎介さんご夫妻



木下ひろ子さんの義両親
木下安乙さん・木下ハクヨさん



中島芳宏さんご家族



宮島敏博さんご家族



若林信子さんご家族

西富士のあゆみによせて

今年（令和6年）で戦後79年目となります。歴史を見ていくと、長野県から満蒙開拓団として数多くの方が移民として送り出されました。その後、戦後の阿南町（各村）での施策のなかで、開拓団を作り各地方へと入植をされたという歴史があります。歴史を後世へとつなげていくということは阿南町の郷土教育として重要なことであります。今回、西富士の方々から貴重な経験やお話を第236号、246号公民館報より西富士開拓団について掲載をさせていただきました。このことは、阿南町の郷土教育においてとても、重要なことであり歴史の伝承へつなげていくきっかけとなりました。

この度の公民館報への掲載にあたり、西富士の方々そしてご関係者につきましては、格別なご尽力いただき、厚く御礼を申し上げます。

阿南町教育長

勝又　　司

西富士開拓団が、最初は野菜栽培を中心に始まり、その後、乳牛の飼育研修を行ったことにより酪農が生業に移り替わり、酪農は「生き物」相手ゆえに大変苦勞したと感じ取りました。

今では、経営の主は三世となり、一世のふるさと大下条を思いながら、朝霧高原での酪農で今以上に活躍することを祈っています。

なお、戦後間もない時期に後の阿南町から愛知県に135名余が開拓地を求め移住し農業を生業とし、西富士開拓団同様の苦勞を重ねた人々がいたことも忘れてはならない阿南町の歴史だと感じました。

阿南町公民館長　村松　幸廣

開拓で苦勞された人たちの話は興味深いものでした。

満蒙開拓から引揚げ、また西富士開拓、今は観光と酪農の朝霧高原となった、でまとめてしまうのと、具体的な体験を聞くのでは全く違います。

「祖父母の時代を知らない若人にとっては、理解することは厳しい」と関内千壽さんが書いています。三世の時代となって、現地でも歴史を伝える難しさがあるようです。こうして記録されたことは、とても良かったと思います。

公民館報編集員　宮下　金善

終戦後間もない昭和21年1月、百余名の若者が、敗戦後の日本の復興と故郷の繁栄のため、リュックサックを背負い、村を離れ温田駅から大きな富士の山麓へと降り立った。歳の頃は10代、20代。水も電気も何もない、火山灰地で作物も思うように育たない地へ。酪農の分野で生計を立てるに至るまで、開拓団のみならず、まの苦勞は想像を絶するものがあり、満州の戦地より無事に帰還後、追われるようにしてこの地に行くしか道がなかった方もおられた。

いつの時代も新たな道を切り拓く方達が次への可能性を生み出すものですが、血の滲むような努力の日々の積み重ねの元に、今も確かに残る阿南と西富士の架け橋がかけられたのだと痛感しました。

公民館報編集委員　小澤　亮子

この度は、貴重な西富士のお話を寄稿いただき、心より御礼申し上げます。

記事を拝読し、「今の若者からすれば理解できないものだった」「10年間は生きるのに精いっぱい」という言葉から、先人たちがどれほどの過酷な状況を切り抜け、その中で力強く未来を築いていったことを知り、勇気をいただきました。最初から無理だと諦めず、全力で生きる大切さを学ぶことができました。先人の皆さんの思いが今も継承されていることを大変尊く思います。

公民館報編集委員　金田　渚

「西富士のあゆみ」たったこれだけの短い言葉の中には、語りつくせない携わった方々の想いがあることと想います。現代の便利な生活スタイルの日々、食糧に困ることもなく、娯楽・自由もすぐ手に入ります。そんな今を生きる私たち。連載を読み終え、それは過酷な大変な苦勞があっただろうと想像すると胸が熱くなりました。

阿南町に生きる一員として、この西富士に携わった方々の想いを決して忘れる事無く、後世に伝えていかなくてはいいですね。

そして、意思を引き継ぎ、現在も頑張って居られる二世、三世の方々がいらつしやいます。頭が下がります。この「西富士のあゆみ」に触れる機会をいただき、西富士が身近に感じられます。折を見て訪ねてみようと思っております。

公民館報編集委員　松澤　みすみ

この度は、公民館報へ寄稿いただきました。誠にありがとうございます。「西富士のあゆみ」を通して、阿南町との関わりの一部ですが学ばせていただきました。そして、現在観光地として誰もが耳にしたことがある「朝霧高原」これは、沢山の方の苦勞や試行錯誤がありできたものと感じました。酪農を中心に発展をさせていき、阿南町を背負っていた一世の方々から日本の酪農の未来を背負っている二世・三世の方々は、阿南町にとって誇りであると思えます。今後、郷土教育として貴重なこの記録を生かし後世へと伝えていければと思います。

阿南町公民館主事　関　研吾

あなん NEWS

大下条小野在住

小林 まるさん

**日本一有名な展覧会と
言われる「二科展」にて
絵画部門 2作品入選!!**

Q 絵画に興味を持ち始めたのは?

母親が、元々イラストレーターとして僕が物心ついた頃に母に「あれ描いてこれ描いて」と頼むと難なく何でも描いて見せるので、その様子を見て幼いながらも「自分にも描ける」と思い込んだのが始めたきっかけです。

Q どんな時に絵を描きますか?

ありがたいことに、お誘いをくださった企画展やグループ展に向けて描くことが多いです。また、絵をかきかき意識してしまうことでもありますが、世情や人情について自分なりの考えや思いを作品に代弁してもらおうことも多く、自分にとって絵を描くことは、誰かに何かを伝える

手段の一つだと思っています。

……とても疲れる描き方ですけど(笑)
Q 今後の目標は?

最近は、作品を観てくれる人と共に、もう少し描き手も楽しめる絵を描いていければと思います。今後の活動としては、入選をさせていただいた二科展を筆頭にもっと自分の絵を晒せる機会を各地に広げたいです。

二科展で入選された作品

題「巻きつく絡みつく纏わりつく気味」

思い悩んで夜も寝付けられない人でも案外元気です。



題「否、えんぺどくれす」

偏った思考に支配された人と、悪好きの童たちです。



展示会のお知らせ……………

「最後の若造展」

令和6年1月11日(木)～1月16日(金)
午前10時～午後6時
(最終日は午後4時まで)

入場料：無料

会場：長野県飯田創造館

小林まるさんの作品が展示されますので興味のある方は、足をお運びください。

私の趣味・自慢

新野 荒木

おがわ ひろし
小川 博司さん

入村50年、人生の一部となった盆踊り新野との縁は、新野高原夏季学生村に学生として入村した時にまでさかのぼります。それ以来、新野の自然、人びと、そして盆踊りに魅せられ、毎夏新野で過ごすようになりました。三十年前には小さな家を建て、十四年前には音頭取りに推薦していただきました。

新野の盆踊りの楽しさは、音頭取りと踊り子との唄の掛け合だけで踊るところにあります。



東の空が明るくなってくる頃の一体感はたまりません。楽器がなく声だけで踊るからこそその一体感があるのです。

残念ながら、年々踊りの輪が小さくなってきています。この楽しさを一人でも多くの方に知ってもらいたいと、約十年前から仲間とともにワークショップを始めました。そして、今、地元の方にはもちろん、日本中、世界中の方に、新野盆踊りの楽しさを知っていただけるような本を書こうと思っています。というわけで、新野盆踊りは、もはや趣味の域を超え、ライフワークとなりつつあります。

あな ン ナ ピ ッ ク

11月24日(金)

MIKUSA PROJECT開催

長野県の文化助成『信州アーツカウンシル』の支援を得て、松本市を拠点とする音楽家 佐藤公哉を中心とした団体『Torus Vii.』が企画し行われました。

和合小学校体育館にて、「和合の念仏おどり」を題材に創作した音楽とパフォーマンスが行われました。



11月26日(日)

新野公民館 第18回芸能文化祭

今年で18回目を迎えた芸能文化祭が新野ふれあい館ホールで開催されました。4年ぶりの開催に、各芸能団体によるコーラスやバンド演奏などが行われ、会場は温かな拍手に包まれました。

また、芸能文化祭に合わせ、11月26日から12月3日まで農村文化伝承センターで展示会も開催され、55人の個人、団体から合わせて100点余りの作品が集まりました。



12月2日(土)

公民館主催

水引・蔓細工ワークショップ

講師に、株旦開の里の職員の方をお招きして参加者で水引の工芸品・正月のしめ縄飾りを作りました。



新野の雪祭り

開催日 令和6年1月13日(土) 1月15日(月)

会場 諏訪神社・伊豆神社
観覧の制限は行いません。お越しの際は、暖かくしてお越しください。



グリーンパーモーターあな ン マンパ ー 募 集

現在、月2回程度 町民会館に集まりコーラスの活動を行っています。町のイベント等にも参加をしています。

活動日 月2回程度
活動場所 町民会館 大ホール
活動時間 午後7時30分
問合せ 教育委員会(22)2270



イラスト：かなだ ゆま

編集後記

新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に移行し、大勢の人々が集う機会が増えてきた中で、「第46回 阿南町みんなで走ろう 駅伝競走大会」が令和5年11月25日開催され無事終了しました。(成績につきましては、町HPに掲載をしています)

平成29年開催されました第40回大会は、スタッフ100名・選手400余名が参加しましたが、今大会にはスタッフ30名・選手200余名と、参加者は減少となりましたが情勢に合う形で行われました。コロナ感染症の影響もありますが、住民の高齢化と大会への関心の希薄が感じられました。最近では、スポーツ大会のみならず地域の祭典等のコミュニティ事業に参加される方も少なくなりました。一度行事を休止すると再開し元の規模に戻すことの難しさを痛感しています。

新年にあたり、今年こそは皆が協力しあい達成感の味わえる大会・情勢を見極めながらニーズにこたえることのできるような諸行事が行えることを望んでいます。

阿南町公民館館長 村松 幸廣